

学校教育目標	『光 あふれる 西柴 ～ふれ合い まなび合い とともに輝く子～』 ○自分らしさを発揮し、豊かな感性を育み、自分の思いや考えを伸び伸び表現できる子を育てます。【知・開】 ○豊かなかかわりの中で、自分を大切に、互いの生き方を認めていく子を育てます。【徳】 ○健やかな心と体を育み、自分や人の命と体を大切にすることを育てます。【体】 ○人や自然、地域を大切に、思いやりをもてる子を育てます。【公】				
	学校概要	創立 52 周年	学校長 柴原 美樹子	副校長 永島 典子	2 学期制 一般学級：18 個別支援学級：4 児童生徒数： 524 人 主な関係校： 横浜市立西柴中学校

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	西柴中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<p>＜自分づくりに関する力＞ ＜協働して課題解決する力＞</p>	西柴中学校 西柴小学校	<p>豊かなかかわり合いの中で、自他の多様性を尊重し、 変化の激しい社会を生きていく子ども</p> <p>・「自己肯定感を育成する指導の工夫」をブロックの共通目標として作成した「小中一貫教育共通取組項目一覧表」を検証していく。 ・年間通して相互の授業参観を行う。1月には、小中合同授業研究会(今年度は西柴中学校)を開催し、授業参観後に教科・領域別の分科会を行い、指導の系統性について検討する。</p>

中期取組目標	<p>○自分の良さを発揮し、向上心をもって努力する意欲をもたせませす。 ・3年間を通して、失敗を恐れず、自分の考えを積極的に発信しようとする意欲がもてるよう指導します。 ○自他を大切に、互いに支え合い、高め合う学習を充実させます。 ・3年間を通して、一人ひとりが自己有用感・自己肯定感をもち、楽しく学校生活が送れるようにします。 ○他者や多様な文化を認められるようにします。 ・「誰にでも挨拶をする」「相手の気持ちを考える」など、様々な立場に立って物事を考えようとする姿勢を育てます。</p>
--------	--

重点取組分野	具体的取組
知 授業改善	①各単元や各授業の中で、子どもたちが主体的・対話的に資質・能力の獲得に向かっていけるような仕掛けの工夫を考える。②重点研究テーマや学校教育目標の実現に向けて、自分の思いを表現したり伝え合ったりする子の育成をめざす。
担当 研究部	
徳 道徳教育	①豊かなかかわりの中で、自分を大切に、互いの生き方を認めていく子を育てるため、道徳科を要として学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育を推進する。②道徳科年間指導計画に沿った、全学級の道徳科授業公開を年一回以上実施する。③自分の思いを書いたり、話したりする活動の中で自分自身を見つめたり、なりたい自分をイメージしたりすることができるようにする。④「道徳教育は日常のあらゆる機会を捉えて行うこと」「評価で、年間の道徳的な見方・考え方の変容をみとるための工夫」「対話的な授業を目指す授業の工夫」などについての研修を、年度初めに行う。
担当 道徳部	
体 健康教育	①早寝・早起きの励行、朝食を食べたり、適度な運動をしたりする等の健康的な生活習慣を身につける実践力を育てる。→養護教諭・栄養士・家庭科専科との連携を図る。 ②「ともキラ班遊び」を通して外遊びや運動の推進を図ることで、健やかな心と体を育み、楽しく体を動かし、たくましく生活できる力を育てる。
担当 体育部	
公 自分づくり教育 (キャリア教育)	「自分づくりパスポート」を活用し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりして、子ども自身の変容や成長を自己評価できるようにする。
担当 児童指導部	
いじめへの対応	①いじめを積極的に認知し、子どもの心情に寄り添う。②月1回定期的にいじめ防止対策委員会を実施し、認知された案件の確認を丁寧に行うことで再発防止に努める。③夏はいじめ防止研修の他、いじめに関する情報等をこまめに共有して、全職員がいじめに対するアンテナを高くするとともに、年5回の児童アンケートにより些細な変化を見逃さない体制づくりをする。
担当 いじめ防止委員会	
人材育成・ 組織運営(働き方)	①5年次以下の職員を中心にメンターチームを組織し、月1回の活動を継続して行う。メンターチームのメンバーで内容を自ら設定し、学べる体制をつくる。 ②ICTを活用した事務の効率化や情報の共有化を図るとともに、全職員の組織的な働き方改革につなげる。 ③高学年で、交換授業を行うことで、教材研究や事務処理の時間を確保する。
担当 教務・メンターチーム	
国際教育 (オーストラリア交流)	オーストラリア姉妹校プログラム終了のため、重点的な取り組みは行わないこととする。
担当 外国語部	
幼保小中一貫	①幼稚園・保育園から小学校へ子どもの育ちと学びをつないでいくために、1年生が年間を通して近隣の幼稚園・保育園の園児たちと交流をしていく。職員同士も互い参観に行き来するなどして研究や交流をする。 ②小学校から中学校へつないでいくために、様々な場面で中学生との交流場面を図っていく。小学校児童と中学生と、子ども同士の活動を探っていく。
担当 幼保小・小中一貫	
GIGAスクール構想	ICT機器を効果的に活用し、個別最適な学び・協働的な学びの実現を目指していく。職員のスキルアップを目指し、相互に情報交換をしていながら授業や業務への効果的な活用方法を見出ししていく。児童も数ある情報や媒体を自ら取捨選択し、自分の意見や考えを表現していけるよう支援していく。令和6年度も引き続き効果的な活用方法について研修をつみながら児童のみならず、職員のスキルアップをはかり、校務改善にも繋げていきたい。
担当 GIGA委員会	
縦割り班活動	縦割り活動を年間予定の中にとり取り入れていくことで、異学年交流が活発に行われるようにしていきたい。コロナ禍において人との交流自体が減ってしまっていたが、令和5年度から、活動を再開できた。令和6年度も引き続き、縦割り活動を意図的に多く取り組むことによって、学校生活をより豊かなものにできるようにする。
担当 ともキラ委員会	